

第3回 兵庫県自転車活用推進計画策定協議会 議事要旨

1. 日時 令和元年11月12日(火) 15時00分～17時30分
2. 場所 ラッセホール 5F サンフラワー
3. 出席者 楠田委員、黒河内委員、関委員、梶尾委員、藤本委員、吉田委員、山中会長
4. 議事

- ①「兵庫県自転車活用推進計画(素案)」について
- ②今後のスケジュールについて

5. 委員からの主な意見

<資料1-2:「兵庫県自転車活用推進計画(素案)」本文(P1~18) 事務局より説明>

- ・P6: Maasの説明に、観光Maasの視点を加えるとよいのではないかと。
- ・P6: コペンハーゲンの事例に、子供の頃から自転車教育を実施している写真を入れてはどうか。
- ・P9: 放置自転車のグラフが減少傾向にあり少なく見える。他地域や目標との比較などで、依然として多い状況を示すほうが良い。
- ・P15: 課題の中に、観光Maasなどにより付加価値の高いサービス提供の視点を入れ、消費を促すようにしたほうが良い。
- ・観光に関して、インバウンドの視点(インバウンドの体験ツールとしての活用など)をどこかに入れたほうが良い。
- ・P8: 市町別に通勤・通学別自転車分担率を示す図を掲載したほうがよい。
- ・P9: 放置自転車数は、地域ごとに需要と供給(駐輪場収容台数)のバランスが悪いことが示せないか。
- ・P10: 交通事故の要因が分からない。どのような場所でどのような年代が事故を起こしているか示してはどうか。
- ・災害時の交通の維持に関して、阪神淡路大震災の時の自転車の使われ方が分かれば示したほうが良い。
- ・P18: 目標の中にツーリズムによる地域経済活性化(地域の稼ぐ力)の視点を加えたほうが良い。
- ・P3: E-BIKEの図について、バッテリーの位置が正しくないので変えてほしい。
- ・P15: サイクルイベントに参加人数を入れたほうがイメージしやすい。また、加西市ワンライドも追加してもらいたい。
- ・P3: どのような人が使う自転車なのかを表現したほうが、多様な人や自転車を使うことが分かりやすい。
- ・事故件数は、全体の事故件数に対する比率で示したほうが分かりやすい。
- ・P13: 滞在時間や客単価など稼ぐ力に関するデータを入れたほうが良い。
- ・P13: 移動手段が足りていないことを示せないか。

<資料1-2:「兵庫県自転車活用推進計画(素案)」本文(P18~77) 事務局より説明>

- ・P19: 指標の計画延長の根拠は、人口とか自転車分担率か。
→「自転車通行空間整備五箇年計画」の計画延長を目標としている。
- ・モデルルート of 整備延長は入っているのか。
→モデルルート of 整備延長は入っていない。
- ・モデルルートは国のナショナルサイクリングルートとは異なる基準で整備していくことを明記しておいたほうが良い。
- ・P19: 市町版計画策定市町数の目標値の根拠は何か。はじめから目標値を下げる必要はない。
- ・少なくともNW計画を策定している16市町は推進計画も策定できると思う。
- ・市町版計画策定の推進のためにも、P8に市町別の通勤・通学別自転車分担率を示したほうがよい。
- ・P20: 事故件数の指標は、第一当事者が自転車だけでよいのか。
- ・第一当事者が自転車である事故件数は、全体の傾向を反映する代表指標と考えられる。
- ・安全教育について、誰がどれくらい実施し、誰がどれだけ受けているか実態が分かれば対応策を考えられるが、統計的な資料はない。組織化されていないグループへの対応が必要である。
- ・自転車教育について、企業の社会貢献の一環として自転車販売業者と連携し、自転車の楽しさについても教えられないか。
- ・P26 他: 情報提供について、シェアサイクルなどの情報がグーグルマップで検索できるようなオープンデータ化の取り組みを入れられないか。
- ・P23: 将来的に電動キックボードが自転車通行空間を使用する可能性がある。自動車の車線認識で自転車道が認識できるようになるなどの動向を注視しておく必要がある。
- ・電動キックボードについては参考資料に入れることも考えられる。

- ・P24：道路標識の見直しについて記載してもらっているが、取組み事例にも見直しのイメージを掲載してほしい。(分かりにくい自転車道や中央線を廃止し車線を拡幅できる区間など)
- ・参考資料に付けている現在の安全教育の取組みの表は、本編に入れる方がいいのではないかな。
- ・歩車分離式信号の取組と自転車との関係が分かりにくい。
- ・サイクルレコーダーは一般的でないため、掲載する必要があるか疑問である。
- ・P29：無電柱化のイメージを入れるのであれば、自歩道ではなく、自転車道のイメージのほうが良い。
- ・P42：インバウンド対応の視点を入れてほしい。
- ・P41：「実施する」「整備する」という表現だと県が実施することになる。宿泊施設に関しては、「需要に応じて協力を依頼する」、ガイドツアーに関しては、「人材育成や団体の設立支援」が県の役目ありと考えられる。
- ・P21：モデルルートの整備は目標との対応が分かりにくい。
- ・P39：インバウンドの視点を入れたほうが良い。(ツアー造成、多言語対応、プロモーションなど)
- ・P41：サイクリスト向けの宿泊施設は、県の認証制度などがあるとよい。
- ・淡路で自転車交通量の継続計測を行っているため、観光の指標として淡路の自転車交通量を入れることも考えられる。
- ・書き方の問題だと思うが、今までやっていたことを継続するだけでは、掲載している施策の実施で「自転車文化」が花開くイメージがわからない。
- ・モデルルートについて、ナショナルサイクルルートを目指す淡路以外のルートが何を指すのかわからない。
- ・ビワイチでは「ビワイチルール」、愛媛では「ヘルメット着用」など、独自の取組みがあって、それを文化と呼んでいる。
- ・安全教育の中に、自動車運転者に対する自転車に配慮した運転の教育を入れたほうが良い。
- ・P31：免許講習時の教育については、免許更新時の教育が重要である。
- ・安全対策については、交差点の安全対策が重要である。
- ・交差点については、通行方法の見直しが必要である。
- ・県としては、利用者のニーズを県警に提供する組織作りが必要である。
- ・下水工事などで道路を工事する際に自転車通行空間が整備出来るようにしていくことが必要である。
- ・Maasに関連して、駅でレンタサイクルの情報が入手できるとよい。
- ・自転車の安全教育については、歩行者の安全教育の延長ではなく、自転車の特性を理解したうえでの教育が必要である。
- ・情報提供に関しては、鉄道駅だけでなく道の駅での提供も考えられる。
- ・モデルルートを整備しても、県内でスポーツサイクルをレンタルしている事業者が少なく、特に海外から来た人がサイクリングしにくい環境にある。協賛メーカーとのマッチングなどは民間で可能なため、県は場所の用意や情報発信をしてほしい。

<資料2：今後のスケジュール 事務局より説明>

- ・本日の意見反映の確認については、必要に応じて各委員に確認するが、基本的には会長一任とする。
- ・パブコメ前に、計画の修正版を各委員に送付する。

以上